

大正3年桜島噴火における爆発記念碑等の現状について

鈴木 敏之

The Condition of Monuments Commemorating Mt. Sakurajima's Eruption in Taisho 3

Toshiyuki SUZUKI

はじめに

鹿児島県内には桜島の大正噴火の記録として各地に爆発および移住等の記念碑が存在している。大正3(1914)年の噴火からあと4年で100周年を迎えようとしているが、これらの記念碑の中には、記念碑自体の風化やコケの付着等により記載の内容がはっきり読み取れないものも少なくない。

県立博物館の設立にあたり大正3年4月に同年1月桜島噴火の関係資料保存展示のために県立図書館内に博物部常任委員会が設置され、桜島大正噴火に関する資料収集および保管が行われた経緯があり、現在、県立博物館には桜島の大正噴火の記録写真や噴出物等が多数収蔵されている。

そこで、過去の文献等をもとに、今回これらの爆発および移住に関する記念碑の状態や碑文の内容を現時点で記録に残す目的で調査を行ったので、ここに報告する。

(注) 碑文の~~~~の部分には、風化等により解読が難しい箇所であり、現地での調査を基に文献等から可能なものは補って記載してある。碑文中の~~~~については解読不能な箇所を示している。

1 桜島島内にある記念碑

- (1) 桜島爆発記念碑
(鹿児島市東桜島町)
〔調査年月日〕
平成21年12月3日
〔所在地〕
鹿児島市東桜島町
東桜島小学校敷地内
〔建立年月日〕
大正13年1月
〔岩石の種類〕
安山岩



〔碑文の現状〕

「科学不信の碑」として有名なこの碑は、現在でも、ほぼ読み取ることができる。風化等により読めない部分も一部あるが、前後の文脈から類推して、内容がほぼ理解できる状況であった。小学校正門入口には表示板や碑の近くに鹿児島市観光課の解説パネルがある。桜島町郷土誌に碑文内容の記録が残っている。

〔碑文の内容〕

(正面) 桜島爆発記念碑

(裏面) 大正三年一月十二日桜島ノ爆発ハ安永八年以來ノ大惨禍ニシテ全島猛火ニ包マレ火石落下シ降灰天地ヲ覆ヒ光景慘憺ヲ極メテ八部落ヲ全滅セシメ百四十人ノ死傷者ヲ出セリ其爆発數日前ヨリ地震頻発シ岳上ハ多少崩壊ヲ認メラレ海岸ニハ熱湯湧沸シ旧噴火口ヨリハ白煙ヲ揚ル等刻々容易ナラザル現象ナリシヲ以テ村長ハ數回測候所ニ判定ヲ求メシモ櫻島ニハ噴火ナシト答フ故ニ村長ハ残留ノ住民ニ狼狽シテ避難スルニ及バズト論達セシガ間モナク大爆発シテ測候所ヲ信頼セシ知識階級ノ人却テ災禍ニ罹リ村長一行ハ難ヲ避クル地ナク各身ヲ以テ海ニ投ジ漂流中山下収入役大山書記ノ如キハ終ニ悲惨ナル殉職ノ最期ヲ遂グルニ至レリ本島ノ爆発ハ古來歴史ニ照シ後日復亦免レザルハ必然ノコトナルベシ住民ハ理論ニ信頼セズ異變ヲ認知スル時ハ未前ニ避難ノ用意尤モ肝要トシ平素勤儉産ヲ治メ何時變災ニ値モ路途ニ迷ハザル覺悟ナカルベカラズ茲ニ碑ヲ建テ以テ記念トス。

大正三年一月

東桜島村

* 鹿児島県立博物館：〒892-0853 鹿児島市城山町1-1

(2)櫻島爆發紀念碑
(鹿児島市桜島小池町)

〔調査年月日〕
平成21年12月3日
〔所在地〕

桜洲小学校正門横
〔建立年月日〕

大正4年1月21日
〔岩石の種類〕

安山岩

〔碑文の現状〕

表面の風化等により一部読めない部分やひっかき傷が見られるが、比較的読み取りやすい。桜島町郷土誌に記録が残っている。

〔碑文の内容〕

(正面) 櫻島爆發紀念碑

鹿児島郡長從七位 濱田壽一書

(裏面) 大正三年一月十二日午前十時五分我校区内赤水ノ眞上海拔約三百八十米突ノ地點ニ當リ俄然大爆發テシシ鳴轟益々熾列ヲ加ヘ正ニ大砲彈ノ炸裂スルガ如ク初春ノ碧空ニ大石巨岩ヲ噴出シ灰煙望濛々トシテ天地映冥為ニ咫尺ヲ辨セス今ヤ南國ノ名島櫻島モ懷滅セントシ其光景轉凄慘能ク筆舌ノ盡ス所ニ非ス遂ニ我櫻洲校ヲ初メ横山赤水小池殆ト全滅シ全島被害ノ甚大ナル眞ニ言語ニ絶ス爾來春秋十一星霜島民克ク困苦缺ニ耐ヘ聖天ノ鴻恩ト内外人士ノ篤キ同情トニ浴シ舊鬪レ努メ己ニ復旧ノ曙光ヲ認ムルニ至ル此秋ニ際シ校長北原元吉並ビニ有志全校區民青年團員ノ熱誠ナル労働奉仕ニ依リ茲ニ紀念ノ碑ヲ建テ以テ後世子孫ノ為ニ之ヲ貽スト云爾

大正四年一月十二日

鹿児島郡視學 佐多博謹書



(3)櫻島爆發紀念碑
(鹿児島市桜島松浦町)

〔調査年月日〕
平成21年12月3日
〔所在地〕

鹿児島市桜島松浦町
桜峰小学校敷地内

〔建立年月日〕
大正8年5月12日

〔岩石の種類〕

安山岩

〔碑文の現状〕

安山岩のしっかりした石碑で、他の石碑と比べる



と文面が比較的長いものになっている。碑文の内容は一部はっきりしない部分もあるが、ある程度は読み取ることができる。桜島町郷土誌に記録が残されている。

〔碑文の内容〕

(表面) 櫻島爆發紀念碑 第七高等學校造士館教授正五位勲五等 山田準撰

(裏面) 我ガ櫻島ハ火山系ニ属シ古來屢々噴火ス維時大正三年一月十二日復爆發ノ慘ヲ見ル前日早晚始テ微震シ漸次其度ヲ強メ是日午前二及ヒ實ニ四百十八回ノ震度ヲ數フ人心為ニ恟々タリ時恰モ十時五分西櫻島横山ノ直上ナル海拔約三百八十五米突ナル溪間ヨリ灰色ノ噴煙濛々トシテ渦巻キ上リ地下鳴動遠雷ノ如シ既ニシテ東櫻島鍋山亦爆發シ大小幾坑前後勢ヲ合セ火焰噴キ巨岩ヲ飛ハシ轟鳴次第ニ加ハリ火光放射ス村民八事ノ以外ナルニ驚駭周章シ老幼提携ニ身ヲ輕舸ニ寄セテ難ヲ鹿児島始良其他ニ避ク既ニシテ冲天ノ黒煙八次第ニ散布シテ全島ヲ蔽フ午後二十三時ノ交更ニ一大爆聲起ル大砲彈ノ空中炸裂スル如シ是前後多數救護船來集シ島民悉ク難ヲ避ク其難ニ死セシモノ僅ニ二十人ニ止マリシハ不幸中ノ幸ナリ薄暮俄ニ大振動殺到ス震域九州全土ニ及ビ音響數百里ニ達ス是ヨリ爆發愈猛ヲ加ヘ喧々囂々天柱裂ケ地維斷ツノ概アリ鹿児島ノ如キ驚惶ニ加ヘ毒瓦斯及海嘯來ル浮説巷ニ盈チ十萬市民一夜四散シテ殆ト隻影ヲ留メス翌十三日八降灰天地ヲ籠メ夜ニ入り更ニ大爆發ト共ニ一大火柱天ニ沖ス柱碎崩シ灼熱ノ熔岩四方ニ噴騰シ火粉全島ヲ蔽ヒ西海岸ノ民家一濟ニ炎上ス十四日轟鳴稍衰フルモ噴煙尚熾ナリ赤水横山ハ熔岩ニ埋没シ小池赤生原及武ノ大部分藤野西道ノ一部ハ大ニ焚カル翌日轟鳴再ヒ烈シク熔岩ノ噴出休マス其翌十六日熔岩海ニ入り西八島ヲ吞ミ一大碇ヲ突出ス東ハ有脇瀬戸ノ諸部落ヲ埋メ遂ニ海峡ヲ横キリテ大隅本土ニ聯繫ス要スルニ今次ノ災一島ノ耕地家屋全滅ニ歸スルモノ東西七部落ハ赤水横山小池赤生原東有脇瀬戸家畜悉ク焼死シ灰沙田野ヲ埋ルコト數尺又ハ數丈住民ニ萬殆ト耕スニ地ナク居ルニ家ナク凄絶慘絶言語ニ絶ス斯ニ二十日ヲ過キ噴火漸ク衰ヘ二月ニリテハ山趾ノ小坑時ニ小爆發ヲ反復シ熔岩濛々白氣ヲ颺クルニ止ル是ヨリ前ニ西櫻島役場ヲ横山ヨリ鹿児島郡役所ニ移ス三月二十一日更ニ之ヲ西道ニ移シ有村貞隆助役武直ニ專ラ前後ノ事務ヲ掌ス四月改選シ大窪宗輔ニ當選ス時ニ噴火漸々収マルト共ニ經濟難來ル全村戸數二千百三十八戸有リ縣廳ハ移住地種子島其他數所ニ定テ窮民ヲ分附ス本村ニ歸住スルモノ猶千十七戸アリ是ニ於テ土地復舊ノ

要迫ル乃チ耕地整理組合ヲ組織シテ大窪村長之力長
 タリ隈元藤村副長タリ政府ヨリ無利息金十四万八千
 二百餘円ヲ借り土地七百三十町八反歩餘ヲ復舊ス又
 産業組合ヲ興シ其長ニ大窪村長ヲ充テ縣廳ヨリ肥料
 購入資金二万三千百參十五円ノ補助ヲ受ク其他官帑
 御救恤金一千五百二十四円二十錢縣廳救濟金及各府
 懸寄附金併セテ八万一千七百八十八円寄贈ノ物品亦
 少ナカラススケテ外ニ八各方面ノ同情ト内ニ八村會
 議員村吏員老者等ノ協同盡トニ依リ漸ク面目ヲ回
 復シ人々其堵ニ安ズルコトヲ得タリ爾來五周星人
 心漸ク舊ヲ忘レント顧フニ近古傳フル所文明及安永
 ノ噴火ヲ最烈トス安永ヲ去ルコト百三十餘年ニシテ
 今次爆發アリ住々因テ來ヲ察セハ今後ノ事知り難き
 カラス後人能ク萬一ヲ無虞ノ日ニ警メ安キニ扭レス
 變ニ騷カス以テ先人ノ優勞ニ答フル所アランカ則チ
 此碑ヲ建ル本旨ニ負カサルモノト謂フベシ因テ梗概
 ヲ此ニ證ス

村 長 大窪 宗輔
 建設委員長 隈元 藤村
 同 藤崎 国彦
 同 上山 平吉
 石 材 商 田之頭三次郎

大正八年五月十二日

第七高等学校造士館教授正五位勲五等
 山田準撰

(4)有村一同祖先歴代總塔（鹿兒島市有村町）

〔調査年月日〕
 平成21年10月21日
 〔所在地〕
 鹿兒島市有村町
 墓地内
 〔建立年月日〕
 大正5年12月
 〔岩石の種類〕
 溶結凝灰岩



〔碑文の現状〕
 有村集落の共同墓地内にあり、碑文の内容はしつ
 かりと読み取ることができる。建立後、新しいもの
 に作り替えられた可能性もある。

〔碑文の内容〕
 (正面) 有村一同祖先歴代總塔
 (左側面) 大正三乙卯年一月十有二日櫻島大爆發吐
 岩石吹灰土噴火猛烈山岳鳴動地軸桿碎人畜死傷突曠
 古之大変事也村落全滅不存舊態墓地埋没不辨彼此痛

又歎矣 共同建碑石為奉村全戸祖先歴代之總塔于時
 大正五年十二月（空白）日也

(5)櫻島爆發紀念
 (鹿兒島市有村町)
 〔調査年月日〕
 平成21年10月21日
 〔所在地〕
 鹿兒島市有村町若宮
 神社敷地内
 〔建立年月日〕
 不明（記載なし）
 〔岩石の種類〕安山岩



〔碑文の現状〕碑文の内容はほとんど読み取ることが
 ができる。

〔碑文の内容〕
 (正面) 櫻島爆發紀念
 (左側面・裏面・右側面) 東櫻島村有村氣候温暖土
 地豊饒五穀砂糖煙草瓜柑橘ノ類總テ穰ラザルナク村
 民永ク其天然ノ慶湜ニ依ラン事ヲ期セリ大正三年一
 月十一日午前十一時頃ヨリ絶ヘズ地大ニ震フ一分時
 平 三回人心戦々競々タリ翌十二日午前九時半西櫻
 島赤水ノ直上東櫻島村鍋山ヨリ殆ンド同時ニ白煙起
 ル十時五分天地ヲ碎ク大鳴動ト共ニ此處ニ櫻島八悽
 慘ナル大爆發ヲ始メ全島悉ク何 喚ノ巷ト化シ終
 夕島民生色ヲ失ヒ或ハ自ラノ船ニ或ハ救?ノ船ニ乗
 ジテ倉皇難ヲ 岸ニ避ク爾來鳴動噴煙憩ムコトナク
 村民八空ジク袖手他人ノ同情ニ生クルノミ九句ノ後
 危険漸ク減ゼシヲ以テ故山追懷ノ念ニ驅ラシテ歸リ
 見レバ哀レ天然ノ豊土ハ忽チニシテ累々クル溶岩ト
 化シ家モ畑モ奮能尋スルニ由ナシ此ニ於テカ有村白
 五戸村民六百有余多ク八肝屬郡花岡村残余八種子島
 ノ官有地ニ移住ス然レドモ中ニ八故山忘レ難ク歸リ
 未ツテ荒土ノ開拓ニ從事スルモノアリ此大慘禍中村
 長川上福次郎氏収入役山下源太郎氏吏員大山矢一氏
 駐在巡査小松氏等身命ヲ堵シテノ活動八村民ノ感謝
 措ク能ハサル所殊ニ山下収入役大山吏員ノ公金数千
 円ヲ守リツ無慘ナル最後ヲ遂ゲ其職ニ殉セシハ特筆
 以テ哀悼ノ意ヲ表セント欲ス爆發ノ慘事ニアケテ聖
 聞ニ達スルヤ畏クモ 天皇陛下一月十六日日根野待
 從ヲ御差遣遊バサレ御救恤ノ御内帑ヲ御下賜遊バサ
 レシハ永ク聖恩ノ宏大ナルニ感泣セズンバアルベカ
 ラズ且國內八素ヨリ事遠ク海外ニ聞ヘ多額ノ救濟金
 贈惠ニ遇ヒ村民其堵ニ安スルヲ得シハ亦以テ永ク銘
 スベキ所ナリ金此ニ碑ヲ建テ爆發ノ?末ヲ録シ以テ
 後世ニ傳ヘント欲ス

(6)桜洲尋常・高等小学校埋没跡の碑

(鹿児島市桜島横山町)

〔調査年月日〕
平成22年 1月21日

〔所在地〕
鹿児島市桜島横山町
桜島ユースホテル
敷地内



〔建立年月日〕昭和39年 1月12日建立
〔岩石の種類〕安山岩(補助碑：花こう岩)
〔碑文の現状〕

主になる石碑には多くのことは記載されていないが、はっきりと読み取れる。追加の補助碑が二つ左右にある。

〔碑文の内容〕
大正噴火 桜洲尋常高等小学校埋没跡
(補助碑)

幾千の先人を薰陶育成し
県下の名門校とうたわれし桜洲校
大正三年この熔岩の下に埋没す
桜島は鳴動噴煙頻りなれとも往時を語らず
こゝ校跡に碑を建立す
昭和三十九年一月十二日
鹿児島県知事 寺園勝志



(補助碑)
桜島の開発につれて古い碑が埋もれていく大正噴火五十年を記念し千八百余年名の後進を擁せしわれらの桜洲校跡の碑もそうであった
ありし日の母校を偲ひこゝに再建す
昭和四十六年 晩秋

(7)大正噴火九十周年記念碑

(鹿児島市桜島横山町)

〔調査年月日〕
平成22年 1月21日

〔所在地〕
鹿児島市桜島横山町
レインボー桜島

〔建立年月日〕
平成16年10月17日

〔岩石の種類〕安山岩(補助碑：花こう岩)



〔碑文の現状〕平成16年に建立されており、碑文もしっかり読み取れる。

〔碑文の内容〕
大正噴火九十周年記念碑
(補助碑)活火山「桜島」噴火の歴史
～大正噴火の歴史

桜島が姿を現したのは今からおよそ1万3千年前と言われている。記録に残されている最初の大噴火は和銅元年(708年)であり、その後も数多くの噴火を繰り返している。

文明の大噴火 文明3年(1471年)
～文明10年(1478年)
安永の大噴火 安永8年(1779年)
～安永10年(1781年)

大正の大噴火 大正3年1月12日午前10時5分、大轟音と共に大爆発した桜島から流出した約30億トンの溶岩は役場・郵便局・小学校などのあった赤水・横山部落のおよそ1300戸の家屋を埋没させた。時を同じくして、幅およそ400メートルある瀬戸海峡にも鍋山から流出した溶岩が流れ込み大隅半島と陸続きになった。

その後も昭和21年、30年と大きな噴火を繰り返した活火山「桜島」は今なお噴火活動を続けている。この碑は大正3年の大噴火による被害に思いを馳せ、永くその記録をとどめるため、この地に建立するものである。

平成16年10月17日
桜島町長 竹ノ下 光

2 鹿児島市内にある記念碑

(1)櫻島爆発記念碑

(鹿児島市城山町)

〔調査年月日〕
平成22年 1月4日

〔所在地〕鹿児島市城山町
(照国公園)

〔建立年月日〕大正5年12月

〔岩石の種類〕花こう岩

〔碑文の現状〕



碑文はしっかり読み取ることができる。大正噴火関係の記念碑の中でも特に長い碑である。碑文を読めば大正噴火の概要を知ることができる。

〔碑文の内容〕
(表面) 櫻島爆発記念碑
(裏面) 大正三年一月十二日櫻島大二爆発ス之ヨリ先我邦ノ火山相次デ活動シ霧島數々噴火セリ識者謂

フ櫻島亦警ムベシト十一日暁以來地震アリ時ヲ經テ頻々且激ヲ加ヘ又烟氣山腹ヨリ騰ルヲ見ル衆相危フム翌朝島内處處々温泉沸キ冷泉進ル島民疑懼逡巡老幼マツ避難ス午前十時二至リ前後ノ山腹相次デ大ニ爆發シ忽チニシテ黒烟天ニ漲リ飛石光芒ヲ曳イテ四散シ爆音地動閃電雷鳴耳ヲ聾シ目ヲ眩セシム市民先ヲ争フテ逃避ス午後六時俄ニ激震アリ家屋ヲ毀シ石壁ヲ倒シ斷崖ヲ崩シ為メニ壓死セルアリ倉皇海ニ投シテ溺死セルアリ天神ヶ瀬戸ノ崩壊ノ如キ一時二十名ヲ斃シ其數六十二名ニ及ベリ翌十三日夜又大爆發ト共ニ一大火柱天半ニ沖シ空ヲ燒キ波ヲ照ラシ赤熱ノ熔岩噴騰シテ附近ノ部落灰燼ニ歸シ全山焦土凄絶殆ンド名状ス可ラズ災異以來人心恟々流言百出毒瓦斯ノ害ヲ傳ヘ津波ヲ叫ビ狼狽狂奔纔ニ身ヲ以テ逃レ難ヲ近郡田郊ノ間ニ避ケ却テ自ラ禍ヲ大ニセルアリ光景慘ヲ極ム是ニ於テ縣市當局部署ヲ定メ有志ト共ニ救済ニカメ湾内汽船ヲシテ難ニ赴カシメ以テ多ク事ナキヲ得此間歩兵第四十五聯隊八士卒ヲ配シテ市中ヲ警メ佐世保鎮守府艦隊亦來港シ以テ變ニ備フ十六日大森理學博士臨檢シテ市ニ危険ナキヲ説キ知事亦告諭スルアリ市八特ニ吏員ヲ各地ニ派シ避難者ヲ慰撫セリ旬日ニシテ爆勢漸ク衰ヘ人心稍安シ而モ餘怒容易ニ収マラズ灰砂濛々屋ヲ埋メ田ヲ没シ大隅ノ中部不毛ノ地トナル者方十數里ニ及ビ熔岩東八有脇瀬戸西八横山赤水小池赤生原ノ諸村落ヲ埋メ餘勢海ニ入り一八瀬戸ノ海峡ヲ塞キ一八島ヲ没シ遠ク海中ニ突入ス且海水ノ激増八沿岸ノ田園ヲ海トナシ夏秋ノ候更ニ土地ノ沈降ヲ促セリ眞ニ桑滄ノ變モ雷ナラズト云フベシ皇上帝乃チ日根野侍從ヲ遣ハサレ又罹災御救恤金壹萬五千圓ヲ賜ハル聖恩浩大須ラク銘記スベキ也爾來ニ周年星噴烟漸ク鎮マリ山容依然民皆堵ニ安ンズ今ニシテ當時ヲ想ヘバ恍トシテ夢ノ如シ之ヲ安永天明ノ噴火ニ比スルニ現象大差ナキニ似タリ

サレバ専門ノ学者豫メ櫻島ノ状態ヲ講究シ有識ノ父老奮記ニ微シテ變兆ニ鑑ミナバ今次ノ災異恐ラクハ豫知セラレ禍害亦幾分ノ輕減ヲ見シナラン既往ハ追フ可ラズ來者以テ戒ムニ足ル蓋百年ノ後又此ノ如キ爆破ナキヲ保セズ為メニ概況ヲ記シテ不朽ニ傳フ庶幾クハ今回羅災ノ不幸ヲ弔シ併テ後世永ク追憶シ以テ未來ノ慘禍ヲ輕減スルノ資ヲラシメントコヲ

大正五年十二月 鹿兒島市役所

(2)櫻島爆震紀念碑(鹿兒島市伊敷町)

〔調査年月日〕

平成21年11月16日

〔所在地〕鹿兒島市伊敷町
(諏訪神社・伊敷小学校前)

〔建立年月日〕

大正4年1月12日

〔岩石の種類〕

溶結凝灰岩

〔碑文の現状〕

碑文はしっかりと読み取ることができる。

〔碑文の内容〕

(表面) 櫻島爆震紀念碑 上伊敷人民中

(左側面) 大正四年一月十二日建設

(右側面) 大正三年一月十二日午前拾時五分爆發

村長 床次金次

校長 樺山源八

その他村會議員氏名が記載される



(3)櫻島爆發紀念碑(鹿兒島市伊敷町肥田)

〔調査年月日〕

平成21年11月16日

〔所在地〕

鹿兒島市伊敷町肥田

(コアツ(株)近く)

〔建立年月日〕

大正3年4月10日

〔岩石の種類〕溶結凝灰岩

〔碑文の現状〕

碑文はほぼ読み取ることができる。

〔碑文の内容〕

(表面) 櫻島爆發紀念碑

(右側面) 大正三年四月十日建立

(左側面) 大正三年一月十一日午前三時四十一分無

感覺ノ微震アリ雨後地震頻繁同十二日午前十時二至

ル間總計四百十八回ニ及ブ同十二日午前十時五分赤

水直上ニ於テ爆發ス轟鳴漸次加ハリ同日午後六時三

十分烈震アリ為ニ住民悉ク畑又八田中ニ露宿セリ翌

十三日午前一時前後前記狀況最モ猛烈ヲ極ム同十四

日ニ至リ稍衰退セリ 如上ノ狀況ニ依リ再后萬一ノ

變災ニ際シテハ狼狽遠避難スルノ要ナカラシ依テ為

後日之ヲ記ス

(裏面) 青年中寄附金

氏名が記載



(4)櫻島爆震紀念(鹿兒島市伊敷町甲突川左岸)

〔調査年月日〕
平成21年11月16日
〔所在地〕鹿兒島市伊敷町
(甲突川左岸・田中宇都橋
近く)
〔建立年月日〕
不明(記載なし)
〔岩石の種類〕溶結凝灰岩
〔碑文の現状〕



表面をコケが覆っているが、読み取りは可能。
近くに耕地整理記念碑あり
〔碑文の内容〕
(表面)大正三年一月十二日櫻島爆震紀念
(裏面)記載無し

(5)櫻島爆發記念(鹿兒島市宇宿三丁目)

〔調査年月日〕
平成22年1月4日
〔所在地〕
鹿兒島市宇宿三丁目
(脇田公園敷地内)
〔建立年月日〕
不明(記載なし)
〔岩石の種類〕溶結凝灰岩
〔碑文の現状〕



櫻島爆發記念碑の中で一番小さい石碑で公園入口
近くのつつじの間にかくれるようにある。「爆發記
念」の他には記載がない。
〔碑文の内容〕
(表面)櫻島爆發記念(裏面)記載なし

(6)櫻島爆發記念碑(鹿兒島市上福元町)

〔調査年月日〕
平成21年10月21日
〔所在地〕
鹿兒島市上福元町
(辻之堂後公民館敷地内)
〔建立年月日〕
大正9年11月20日
(青年会の発足日)
〔岩石の種類〕溶結凝灰岩
〔碑文の現状〕



表面はコケに覆われており裏面も解
読が難しい。
〔碑文の内容〕
(表面)櫻島爆發(本會創立)記念碑 大正九年十

一月二十日、大正三年一月十二日原口青年會
(裏面)不明な部分多数あり
(コケ、風化のため)

(7)櫻嶋爆發記念碑(鹿兒島市郡山町)

〔調査年月日〕
平成21年10月21日
〔所在地〕
鹿兒島市郡山町常盤
〔建立年月日〕
大正5年10月22日
〔岩石の種類〕溶結凝灰岩
〔碑文の現状〕



表面はコケが覆っており
読み取りが難しい部分もある。郡山町郷土誌に記録
が残されている。
〔碑文の内容〕
(表面)大正五年十月二二日建設
櫻島爆發記念碑

大正三年一月十一日午前三時以來午後一時迄二十
余回ノ強弱震アリ就中午前三時頃ト同十時十一時四
十分ノ三回及午後零時半前後ノ兩三回最モ強ク震動
長クシテ人心恟々たり然ルニ未ダ誰シモ櫻島ノ爆發
ニ非ズヤト危ムモノ無カラザリシガ十二日午前八時
御岳ノ西側ニ当リ雲ム状ノ白烟ノボリ同九時十分南
岳ノ頂上ヨリ同様ノ白烟騰ルヲ見タリト嗚呼是レ櫻
島大爆發前ノ事実ニシテ安永以來ノ大噴火ナリトス
十二日午前三時ヨリ十二日午前八時迄三百余回ノ
シン動アリテ同日午前九時ノ大震動ト共ニ朝来噴烟
シ居リタル横山即チ櫻島西面四合目ノ人家ヲ 約
二十丁赤水ノ上方山腹ヨリ轟然大音響ト共ニ破裂シ
濛々タル噴烟凄シキ勢ヒニテ立登リ火柱天ニ冲シ猛
火ト共ニ飛冲セル岩石ハ空中ニ於テ火ヲ発シ山ヲ伝
フテ海中ニツイ落シ実ニ恐怖凄慘ヲ極ム同日午前十
一時烟 ノ高サハ約三千米突ニ達シ同日午前午後六
時三十分ノ大地震以後ハ爆發益々甚タシク翌十三日
午前一時前後八特ニ旺盛ヲ極メ天柱挫クルカト思ハ
レタルガ同六時頃ヨリハ少シハ減退シ間断ナキ爆音
ヲ発シ噴烟実ニ一萬六千尺ノ高キニ達シタルコトト
落下スル灰ハ四方ニ飛散シ最モ甚タシキハ国分加治
木重富方面ニシテ風位ノ為鹿兒島市ノ降灰ハ著シカ
ラズ 然レ共十七日ニ至リ鹿兒島市ノ降灰ハ頗ル甚
シク寸前暗黒トナリ昼間ト雖モ燈火ヲ用ヒタリ此地
震ハ九州全土ハ勿論高知県下幡多地方迄遠雷ノ如キ
音響アリテ遠キハ東京方面ニモ降灰アリタリト後数
十日ニシテ止ム

附記

本村ニ於テモ十三日十四日ノ両日間ニハ鹿児島市櫻島及伊敷吉野吉田方面ヨリ数千ノ避難民市ヲ成シ各青年会員其他ニ於テ救護ノ方法ヲトレリ又本村民ニシテ入来樋脇方面へ避難セシモノ多数アリ当村ニハ何ノ危険モナカリキ仍テ之ヲ後世ニ伝ヘンガ為碑ヲ建設ス

建設委員 代表世話人 多丸善太郎（後村長）
上原喜平次 吉満助太郎 森山善熊上原雄二
他に48名の建設費寄付者の名が彫られている。碑文の書者は多丸武雄

石工は藤崎利左衛門 作者不明

3 始良・霧島市にある記念碑

(1) 昭和大典記念碑（霧島市福山町）

〔調査年月日〕

平成21年10月21日

〔所在地〕

霧島市福山町池ノ谷

地区集会施設

〔建立年月日〕

昭和3年12月1日

〔岩石の種類〕溶結凝灰岩

〔碑文の現状〕碑文の途中に

大正三年の櫻島爆発の文面が読み取れる。故立山嘉兵衛氏記念碑との記載があるが、それらとの関係は不明である。

〔碑文の内容〕

（表面）昭和大典記念碑

（裏面）質慈善ノ心深く・・・（中略）・・・大正三年一月十二日午前十時櫻島爆発シタルニ全十二年一月同協議ノ・・・

（左側面）故立山嘉兵衛氏記念碑・・・（略）
・・・人民總代 岡山袈裟助 他3名の氏名）

（右側面）個人名（8名）が列記

・・・（中略）・・・

昭和三年十二月一日



(2) 記念碑（霧島市隼人町）

〔調査年月日〕

平成21年10月21日

〔所在地〕

霧島市隼人町浜之市

（隼人港）

〔建立年月日〕

大正5年2月11日



〔岩石の種類〕安山岩

〔碑文の現状〕表面をコケが覆っており読み取りにくく不明な点も多い。

〔碑文の内容〕

（正面）記念碑（裏面）大正三年一月十二日午前十時櫻島爆発噴煙天ヲ蔽フ須ニシテ雷鳴震動

.....一四日暴風ハ・潮 伴ヒ海岸... 以下風化のため不明

（左側面）大正五年二月十一日建之

隼人郷土誌（郷土誌年表）より

1914（大正3）年1月12日桜島大爆発午後6時30分猛烈なる大地震が発生、網屋に避難民上陸し、1916（大正5）年隼人町浜之市網屋に櫻島爆発堤防修築記念碑として建立されたことが記されている。

(3) 櫻島爆発記念碑（始良市加治木町）

〔調査年月日〕

平成21年10月21日

〔所在地〕

加治木町柁城小学校敷地内

（体育館横）

〔建立年月日〕

大正7年1月

〔岩石の種類〕溶結凝灰岩

〔碑文の現状〕

碑文の前半部分が風化のために読み取りにくい。五角形の碑で、すべての面に記載がある。加治木町内にも桜島からの避難者が多数あったことが記されている。

（正面）櫻島爆発記念碑

（左側面～）維時大正三年一月十二日午前十時櫻島大ニ爆発ス此一句前ヨリ 夜 地震セリ當日快晴

モ黒煙天ニ 島岳ヲ没 而 次第ニ難船到着ス其慘状見ルニ 警 吏八救護ニ從事セリ午後六時更ニ ナル音 ヲ發 天大ニ 人皆屋外ニ逃ツ出再來 八 鳴ノ如ク十 降灰八朦トシテ 天ヲ セハ殊ニ毒瓦斯 海 ス 喧傳シ為ノ 難西別府小山田 横川栗野近 町 役場付近ハ

全町一時混雑ヲ極己ニシテ往來跡絶工空屋鳴動シテ實ニ凄然タリシモ海面ヲ望メバ何等ノ異状ナシ當夜町役場附近 徹宵セシ人モ翌朝所々ニ避難セリ四五 ヲル 海嘯毒瓦斯襲來スル兆候更ニナカリシカバ人々稍 安堵 追々歸宅セシモ櫻島避難者ハ続々來リテ一千人ニ及ビ ナレバ町吏八救助ニ モラル常務ヲ処理スル能ハス更ニ於テ臨時救護團ヲ組



織シ精矛神社ノ社務所ニ置キ救護事業ニ従事シ避難所 倶楽部ヲ充テシモ終

旧郡衛迄使用スルニ至リステ日ヲ經ルニ隋 自居所ヲ求メテ他 移住セシモノモアリ居残レル者ハ自炊スル事トナリ田中川原ニ避難小屋ヲ作りニ移轉セシメ救護團モ解除セリ救護費ノ如キハ縣費ト當町特志家ノ寄付トヲ以テ支辨シ各府縣ノ寄贈品ハ其都度櫻島避難者ヘ分配セリ而シテ爆發以來ノ鳴動及ビ降灰モ漸次減少シ同年八月ニ至リ非常ノ・潮ニ海岸東西ノ堤塘モ終ニ破壊シ稻田其他損害少ナカラス則櫻島爆發ニ起因スト云フ

抑モ櫻島爆發ガ歴史ニ登載以來今回迄大小三十四ナルモ當地ニ一ノ記念物ナシ石工竹内吉蔵氏ハ之ヲ遺憾トシ私費ヲ授シテ今回ノ爆發記念碑ヲ建設セシ事町長ヘ出願シ許可ヲ得テ予ニ文ヲ謂ハル予當夜町役場ニ徹宵シ続キテ救護團ヲ組織シ終始此事ニ關係ハ故ニ不文ヲ顧ズ事實ノ梗 ヲ記スト云爾
大正七年一月 從五位勲五等 稻恒重節撰

4 大隅半島にある記念碑

(1)櫻島爆發記念碑（鹿屋市輝北町市成）

〔調査年月日〕
平成21年10月21日
〔所在地〕
鹿屋市輝北町市成上沢津
公民館敷地内
〔建立年月日〕
大正9年1月12日
〔岩石の種類〕溶結凝灰岩
〔碑文の現状〕碑文は読み取



ることができるが、石碑自体はかなり風化している。

〔碑文の内容〕
（表面）櫻島大爆發記念碑
（左側面）大正九年一月十二日建設
（右側面）大正三年一月十二日爆發
青年團（裏面）記載無し

(2)櫻島爆發記念碑（鹿屋市輝北町百引）

〔調査年月日〕
平成21年10月21日
〔所在地〕
鹿屋市輝北町百引愛宕
〔建立年月日〕不明
〔岩石の種類〕溶結凝灰岩
〔碑文の現状〕
碑は風化しているが、読み



取りは可能である。多くの記載はされていない。

〔碑文の内容〕
（正面）櫻島爆發記念碑
大正三年一月十二日 遠屋書
（裏面・側面）記載無し
右隣にもう1つ石碑あり（里道改修記念碑）

(3)記念碑 櫻島爆發（鹿屋市輝北町）

〔調査年月日〕
平成21年10月21日
〔所在地〕
鹿屋市輝北町上百引
旧岳野小学校跡地
〔建立年月日〕
大正15年3月25日
〔岩石の種類〕溶結凝灰岩
〔碑文の現状〕



ツヤやコケに覆われ解読が難しい。垂水岳野と百引岳野の合同で建立された記念碑であることが読み取れた。

〔碑文の内容〕
（正面）記念碑 櫻島爆發
大正三年一月十二日午前十時 ...
降石 平地ニ放テ約二尺二寸 降灰
嶽野分教場開始
大正六年... 以下不明
（側面左）大正十五年三月廿五日
百引・牛根両嶽野建立

(4)櫻島噴火記念（曾於市大隅町）

〔調査年月日〕
平成21年10月21日
〔所在地〕
曾於市大隅町東坂元
自治会館敷地
〔建立年月日〕
大正3年4月3日（寄進）
〔岩石の種類〕溶結凝灰岩
〔碑文の現状〕



溶結凝灰岩でかなり風化している。多くの記載はされていない。屋根つきの爆發記念碑の中では珍しい形の碑である。

〔碑文の内容〕
（正面）大正三年四月三日寄進
（左側面）櫻島噴火記念
大正三年一月十二日

(5)御即位記念碑（曾於市大隅町中之内）

〔調査年月日〕
平成21年10月21日
〔所在地〕
曾於市大隅町梶ケ野
公民館敷地内
〔建立年月日〕
大正4年11月12日
〔岩石の種類〕溶結凝灰岩
〔碑文の現状〕



表面はかなり風化している。梶ケ野公民館は平成13年度道路改修に伴い、移転、その際に梶ケ野石塔群と一緒に現在地に移転設置される。（表示板あり）

〔碑文の内容〕
（正面）御即位記念碑
（右側面）大正四年十一月十二日
（左裏面）サクラ島フン火年月日
大正三年三月十二日午前拾時フン火ス
（裏面）紀元二千五百七十五年
岩川村中之内梶ケ野区民一同

〔建立年月日〕昭和3年3月6日
〔岩石の種類〕溶結凝灰岩
〔碑文の現状〕

碑文はしっかり読み取れる。神社跡地にあり、左側面に水道記念の記載あり、碑の両脇に公民館落成記念碑（昭和50年9月建立）、桜原水道新設記念碑（昭和50年11月23日落成）二つの碑あり
〔碑文の内容〕
（正面）櫻島爆発移住記念碑
（右側面）設立昭和三年三月六日 大正三年四月廿四日移住 他に役員名が記載
（左側面）水道記念 大正十三年三月廿九日開通

(8)移住記念碑（南大隅町大中尾）

〔調査年月日〕
平成21年11月20日
〔所在地〕
肝属郡南大隅町
大中尾公民館敷地内
〔建立年月日〕
大正15年3月21日
〔岩石〕花こう岩
〔碑文の現状〕



表面の碑文は彫刻部に塗料を入れるなど手が加えられている。裏面は風化して読み取りにくい。右隣に平成10年2月に追加（補助）碑が建立され、同文が記載されている。

〔碑文の内容〕
（正面）移住記念碑
（左側面）大正十五年三月廿一日建設
（裏面）時惟大正三年一月十二日ノ大爆発ニヨリ吾ラノ祖先以来墳墓ノ地タリシ東櫻島村瀬戸部落外四ケ字八忽溶岩ト化シテ其影ヲ留メス家ヲ失ヒ衣食ヲ奪ハレシ多クノ罹災（碑文は3行のみ、その後は途中で途切れている）

追加（補助）碑
（建立年月日）平成10年2月
（岩石）花こう岩
（正面）移住記念碑（桜のマークあり）
大正15年3月21日建設
彫刻者 上田駒吉

ここに修復する

先人達の遺徳を忍んで

3区合同 百引区長 新原逸夫
興し 川南区長 瀬下一巳
川北区長 竹ノ内敏夫

(6)櫻島移民祖先之霊（鹿屋市花里町）

〔調査年月日〕
平成21年11月20日
〔所在地〕
鹿屋市花里町花里公民館
敷地内
〔建立年月日〕
不明（大正三年の記載はある。）
〔岩石の種類〕溶結凝灰岩
〔碑文の現状〕



記載内容は多くない。碑自体はかなり風化している。碑の近くに桜が植えてある。もう一つの碑あり。内容は不明であった。

〔碑文の内容〕
（正面）櫻島移民祖先之霊
（右側面）大正三年



(7)櫻島爆発移住記念碑

（錦江町桜原）
〔調査年月日〕
平成21年11月20日
〔所在地〕
肝属郡錦江町桜原

平成10年 2月吉日

推進委員代表 山口勝巳
施工者 瀬口石工

〔裏面〕時惟大正三年一月十二日ノ大爆発ニヨリ吾ラノ祖先以来墳墓ノ地タリシ東櫻島村瀬戸部落外四ヶ字ハ忽溶岩ト化シテ其影ヲ留メス家ヲ失ヒ衣食ヲ奪ハレシ多クノ罹災...過去の碑の内容と同文が記されている。



(9)土地所有権移轉記念碑（垂水市大野原）

〔調査年月日〕
平成21年10月 2日
〔所在地〕
垂水市大野原地区
多目的研修集会施設敷地内
〔建立年月日〕
不明（記載なし）
〔岩石の種類〕溶結凝灰岩
〔碑文の現状〕



碑文は、ほぼしっかりと読み取れる。

〔碑文の内容〕
（正面）土地所有権移轉記念碑
（裏面）氏名ほか

5 その他の地域にある記念碑

移住記念碑（宮崎県小林市大王地区）

〔調査年月日〕
平成21年12月 7日
〔所在地〕宮崎県小林市大王
公民館敷地内
〔建立年月日〕
大正12年 1月12日
〔岩石の種類〕安山岩
〔碑文の現状〕



しっかりとした土台の上にあり、高さは4m程度あり。碑文は、ほぼしっかりと読み取れる。左隣には桜島大正噴火の移住80周年記念として平成6年5月5日に桜島町が追加碑を建立している。

〔碑文の内容〕
（正面）移住記念碑
（左側面）大正拾貳年壹月十二日建
（裏面）

櫻島は錦江湾頭の巨島にして風光千古称するに足るものあるも爆発の惨禍数次に其の厄に遇う一再ならず近く大正三年一月新春の端気猶天地を罩むるに遽然震動頻に至り噴煙盛に起り櫻島遂に噴火す。火焰を鳴噴き巨石を飛ばし轟鳴殷々凄愴を極め火光炎々心胆を寒からしむ島民周章施す所を知らず老幼僅かに相携へ輕舸を呵して難を對岸に避く震域九州全土に亘り音響四百里の遠に達す凄惨の状亦以推想に難からざるものあり如斯もの數日熔岩四方に噴騰し火粉全島を掩ひ嶋嶼を没し村間を毀ち一島の耕作為に悉く埋没し家畜為に殆焚死し一万の住民歸に家なく耕すに地無く太凄惨を極む識者奔走復旧を策する策するも事固より容易ならず仍て意を決してついに宮崎縣西諸縣郡小林町字大王の地に移る累世墳墓の地を辞してあえて未踏の地に漂浪す誰か亦涙なきを得んや大正三年五月六日初めてこの地に来る者三十九戸爾三回に涉りて十五戸を加ふ倭屋を構えて僅かに雨露を凌ぎ夷守國有林の下付を受け鋭意之が開墾に従う大正六年四月二百余金を投じて水道を開き翌年三月道路工を竣ふ爾來春風沐雨十星霜今や現住戸數六十一地積百八町生活の基礎ようやく定り各その堵に安ず顧に一生成を万死に得新に生活の根底を樹つるを得たるは洵に昭代の賜にして天恩の優渥に由ると雖地方官民の深厚なる同情と援助とに負うもの尠からず就中堀内盛兼氏の懇到なる指導と志戸本次兵氏の幹旋に依り産業組合加入の資を得らるとは不朽に伝へて忘る能はざる可きなりとす時方に十周年を迎ふるに際し往時を追想して感慨止むなし乃ち碑を立て事蹟の一斑を刻して後昆に傳ふ

時惟大正十二年癸亥亥年一月上浣

宮崎縣西諸縣郡長

從七位勲七等 中谷昌左 撰文併書

追加（補助）碑

（建立年月日）
平成6年5月5日
（岩石）
安山岩（桜島のものを使用）
（正面）

桜島噴火移住80周年記念

平成6年5月5日桜島町建立

故里火の島桜島を去って80年
哀歎を乗り越えて幾星霜
ここ夷守山麓に王土大王を築いた
先人の功を大正溶岩に刻み替える
桜島町長 竹之下 光



おわりに（今後の課題）

桜島大正噴火より約100年におよぶ時間が経過しようとしており、溶結凝灰岩などでつくられた碑をはじめとして当時の爆発の様子や移住の記録を残す各地の石碑も風化によりかなり朽ち果て、それらに刻まれた貴重な記録も解読が不能なものも多く見られるようになってきている。しかしながら、今回調査した中には、地域住民あるいは関係する行政機関等が石碑とその周辺を含めて手入れをしたり、追加の碑を建立したりするなど先祖の労をねぎらい、後世に噴火の様子を伝え防災に生かすために桜島噴火の記録を大切にしているところもあることが分

かった。過疎が進み、廃校になった学校の片隅ある碑など今後、その存在すら忘れ去られてしまう可能性もある。

今回の調査により鹿児島に住む多くの方にこれらの碑の存在を知っていただき、今後の石碑の保存の在り方や最近噴火活動が活発になっている桜島噴火の防災について考える機会にさせていただければ幸いである。

今後、各碑の建立にまつわる経緯の聞き取りや文献の調査を継続し、桜島からの移住者の多かった離島にある碑の調査等を実施し、桜島大正噴火の記録を残していきたい。

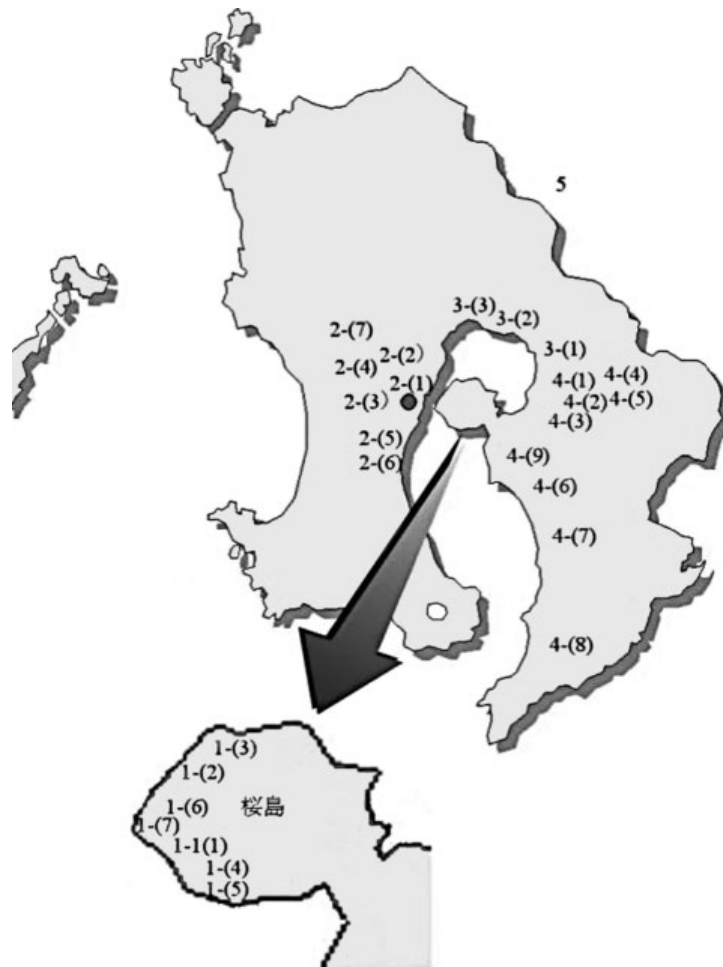


図 桜島爆発記念碑等の所在地略図（図中の番号は本文中の見出し番号と一致）

参考文献

- ・桜島大噴火（平成6年）橋村健一 春苑堂書店
- ・桜島町郷土誌（昭和63年）桜島郷土誌編纂委員会
- ・郡山郷土史（平成18年）郡山郷土史編纂委員会
- ・隼人郷土誌（昭和60年）隼人町教育委員会
- ・輝北町郷土誌（平成12年）輝北町郷土誌編纂委員会
- ・小林市史第二巻（昭和62年）小林市史編纂委員会